

令和6年度能登半島時の津波避難に係る意見交換会 議事録

開催日：令和6（2024）年2月10日（土）

午前の部 午前10時から午前11時30分

対象地区：中央、松波、荒浜

【出席：32町内55名（対象41町内）】

午後の部 午後1時から午後2時30分

対象地区：米山、鯨波、大洲、高浜、西山（旧大田、旧石地）

【出席：30町内42名（対象39町内）】

柏崎市・事務局

市長

危機管理監、防災・原子力課長、防災・原子力課員

市民生活部長、市民活動支援課長、市民活動支援課員、市民課長、市民課員

1 市長挨拶

2 意見交換

(1)発災当時の状況について

(2)津波警報発表時の避難について

(3)避難場所・避難所について

(4)津波ハザードマップ・防災ガイドブックについて

(5)その他

【防災・原子力課からの説明】

(1) 柏崎に想定される最大の津波について

- 柏崎において、津波に対して過度な心配は必要ない。長岡技術科学大学 犬飼准教授(津波の挙動解析研究)から、ハザードマップは想定される津波を妥当に反映していること確認済み(令和 6(2024)年 2 月 1 日)。
 - ・平成 29 年に新潟県が、6 つの断層が柏崎に最大の津波をもたらすとして示した。
 - ・この中には、東京大学 佐竹教授が警戒を呼び掛ける、いわゆる割れ残り断層「佐渡西方・能登半島北東沖」も含まれている。
 - ・柏崎で最大の津波は上越・糸魚川沖断層によってもたらされる、笠島で約 6m と予想
 - ・津波が被るところを、障害物によるせり上がりの高さも考慮して、色付きで示したものがハザードマップである。
 - ・地震発生後 3 分以内に気象庁は警報などをだすこととしている。大きな揺れを感じた際は、火の元などを確認の上、いつでも逃げれる準備をお願いしたい。

(2) 津波時の避難対象について

防災ガイドブック 14 p、A の海にいる方、B のハザードマップで色がついている場所にいる方は、注意報以上ですぐ避難場所へ避難してほしい。C のハザードマップで色がついていない場所にいる方は、避難の必要はない。避難準備しつつ、自宅待機をお願いしたい。沿岸地域の外のコミュニティについても、津波の想定は無く、避難の必要はない。

(3) 津波時に避難する所について

- 津波の場合はまず避難場所へ逃げる
 - ・避難場所は、災害の危険から一時的に逃れる場所である。例えば公園など、屋外であることもある。津波避難は、防災ガイドブックの津波○がついている避難場所へ行っていただきたい。
 - ・避難所は、帰宅できない方が避難生活を送る施設。赤字で書いてある施設は、優先開設する施設として、震度 5 弱以上で市職員が避難所開設する。
 - ・安全な町内集会施設を自主防災会判断で開放することも自由。
 - ・避難の方法は、原則徒歩。徒歩圏内に避難場所は複数ある。
 - ・避難場所のすぐそばにある避難所が開いていないといった声もあった。迅速に開設する体制づくりは現在進めている。
 - ・屋外に避難者された方が情報を入手するには、LINE や市メール配信サービスに登録をお願いしたい。情報を個別に、手元の携帯電話に届けることが可能となる。

各地区からの意見（午前部）

松波地区

- ・松波コミセンは海拔約 4mである。コミセンの 2 階に上がると海拔約 7mとなる。松波コミセンは避難所として安全なのか。

市

- ・長岡技術科学大学犬飼准教授から、松波コミセンを含め、防災ガイドブックに掲載されている避難所は全て適切であると評価をいただいている。

中央地区

- ・津波サイレンが 2 時間も鳴り続けたことはよかったのか。
- ・要配慮者を含め、津波災害時に徒歩での移動は無理があるのではないか。
- ・佐渡沖の割れ残りの活断層は現在のハザードマップに反映されていると聞いたが、新たな知見を含め、検証してほしい。
- ・鯖石川について、防潮堤がないため、津波が遡上し、浸水するのではないか。
- ・中央地区の中にある優先開設避難所の中で、第一中学校は数名、柏崎小学校はかなりの人数が避難したが、中央コミセンの避難者は 0 人であった。中央コミセンは、ハザードマップ上、浸水想定区域に含まれてはいないが、海に近く、津波の危険性があるときに近づくことは肌感覚として難しい。中央コミセンは果たして避難所として適切であるのか検討いただきたい。

市

- ・津波サイレンで、市民に不安を煽ってしまったことは課題として認識しており、適切な運用方法を検討していきたい。
- ・要配慮者の避難方法について、具体的な指針を示していきたい。原則は徒歩での避難であることは理解していただきたい。
- ・佐渡沖の活断層については、こちらも長岡技術科学大学犬飼准教授へ確認をおこなった。佐渡沖の活断層による津波は 3m と想定されており、柏崎には大きな被害はないとの判断から特別な対応はしていない。
- ・防潮堤についても長岡技術科学大学へ確認を行い、ないよりもあった方がいいという判断をいただいた。河川遡上について、洪水等で河川の水位が上昇している場合は、ご懸念の部分を完全には否定しきれない。どのような対応が適正なのかは今後も県に働きかけ、検討していきたい。

中央地区

- ・ 駅前住宅管理者をしている。1～5号棟は避難場所になっているが、各管理人は避難場所となっていることを知らない。管理人は1～2年で交代する。交代の際に建築住宅課から説明を受けるが、その中で避難場所になっていることについては触れられていない。管理人が交代する際には避難場所であることなどもしっかりと説明してほしい。
- ・ 災害時に看護師の方を派遣してもらい、治療等をしてもらうことは可能なのか。実際に酸素供給やたんの吸引などの医療行為（応急処置）を行った事実がある。
- ・ 当日、駅前住宅1号棟へ15人くらい避難していた。あくまでも避難場所であることから、寒空のもとにいることになり、低体温症の危険性がある。駅前住宅ではそういった場合の対応はできない。これに対応するため、備蓄品を配備してほしい。
- ・ 原子力災害時は、建物の中に避難しないといけないと話していたが、一人で避難することができない人（要配慮者）がいる。原子力災害と津波の複合災害時には、皆、自分のことしか考えられず、実際に他の人を助けるなどしないと思う。

市

- ・ 駅前住宅が避難場所であることについて、管理人が交代される際には必ず説明を行うよう、都市整備部建築住宅課に申し付ける。
- ・ 避難場所における必要な物資の供給は、体制を整える。
- ・ 市の保健師・看護師は今回のような規模の災害の場合は全員登庁が原則である。お声かけがあれば、原則は医療機関へお願いすることとなるが、簡単な応急措置等に対応する体制は今後も取り続ける。
- ・ 原子力との複合災害について、常にセットで起こるわけではない。原子力発電所の安全確認は行っている。住民の皆様には、できるだけ早く適切な情報を伝えるよう努めていく。

中央地区

- ・ 津波の想定を聞いたが、東日本大震災を鑑みると想定外とのことが必ず出てくる。
- ・ 原子力発電所の事故を絡めた話もいくつか出てきているが、原子力発電所の再稼働ありきで話をしているのはおかしい。

市

- ・ ハザードマップは科学的知見に基づき作成しており、信頼性が高いものと認識している。津波の危険性が過少に評価されないよう周知していくが、東日本大震災のような事象は考えづらいと認識している。想定外と言われてしまうと、市として何もできなくなってしまうのが正直ところである。当然、新しい知見が出てきたらすぐに反映させていきたい。
- ・ 原子力発電所の再稼働・稼働に関係なく、原子力発電所が存在していることは事実である。有事の際には原子力発電所に関する事実をできるだけ早く、正確に周知をしていく。
- ・ 複合災害時における避難行動等については、初代原子力規制委員会委員長を務められた田中俊一先生の講演会が3月2日に開催されるので、そこで詳しい説明を聞いてほしい。

中央地区

- ・今回の災害では、とにかく高台へ避難、避難したら戻らないでくださいというアナウンスが強調されていたため、市内はパニック状態になっていた。
- ・このハザードマップを信頼するしかないわけだが、浸水想定区域外の人が逃げずに何かあった場合は個人の責任になるのか。
- ・ハザードマップの基準水位は、せり上がりが含まれているのか。
- ・以前、説明会で鶴川へ津波の遡上がないと説明を受けたが事実か。

市

- ・ハザードマップは、基本的に信頼がおけるものと考えている。配布資料のとおり、津波における避難が必要な世帯を確認したところ、中央・松波・荒浜地区については、自宅にいる限り避難の必要はない。地域内で無理に高台に避難する必要ないことを周知していただきたい。
- ・西山地区のある町内の行動を紹介したい。「ハザードマップをみて、町内がすべて津波の浸水想定外であることを確認し、1軒ずつ電話にて安否確認を行い、慌てずに逃げなくていいことを伝えた。」極めて適切な行動と認識している。
- ・せり上がりについて、津波ハザードマップはせり上がりまで考慮しているものである。
- ・河川遡上について、以前の説明内容を訂正させていただく。現実に河川遡上は起こる。この度の津波では、8号バイパスの新しくできたトンネルの入り口付近で15cm程度水位が上がった。なお、津波ハザードマップは、河川の地形を含めて作成されたものであることから、大雨による洪水寸前でないという前提で言えば河川遡上による大きな被害はないと言える。

荒浜地区※写真を投影

- ・今回、車で避難が多く、歩いている人はほとんどいなかった。これまでの地震のときも車を使って避難をしている。町内会長がお願いしても住民は徒歩で避難してくれない現状がある。
- ・町内にある山の上は標高60mあり、そこまで上に行かなくても問題ないと思っているが、住民はそこまで行く。なかには刈羽、曾地、長岡まで逃げた方もいる。
- ・17時頃、市長からコミセンの状況確認の連絡があったが、17時10分の時点ではだれもいなかったことを確認している。
- ・町内では、どうしても車で逃げたくて、駐車場を町内会で確保してほしいと要望があった。
- ・墓場の被害状況は、墓石は倒れていなかったが神社の瓦が落ちていた。
- ・消防団は、渋滞している山のとっぺんで5、6人が手分けをして交通整理をおこなっており、翌日は要配慮者19人の安否確認をおこなった。

市

- ・特にPAZ地区の皆さんからは、適切な避難を行っていただいた。サイレンが鳴り続けた

ため、屋外に避難者が多数いた中、町内会長、消防団が適切に誘導していただいた。我々が至らなかった点である。

- ・避難所表示看板に誤りがあり、市長からの指導を受け、確認し、不備がある部分について修正を始めている。
- ・防災ガイドブック（自然災害編）は来年度更新する。避難所・避難方法について町内からも意見をいただきたい。

松波地区

- ・地区にはコミセン、中学校、はまなす特別支援学校などいくつか避難所があるが、はまなす特別支援学校が休みだったので、近くのさざなみ学園に大勢の方が避難した。生徒がいたが、4つの教室に80人ほど避難をした。
- ・さざなみ学園に行く道中に国道352号が渋滞しておりすぐにはたどりつけなかった。また、クリーンセンター脇の林道が渋滞していた。
- ・コミセンや中学校よりさざなみ学園に多く避難したが、さざなみ学園は生徒分しか備蓄品はなく、町内会長から乾パンと水を準備してもらい、津波警報が解除されるまでいた。停電もあり、残りたい人もいたが、さざなみ学園もいつまでも避難所も開けられないため、その後、コミセン、学校へ避難した。訓練では、さざなみ学園の前に避難するようにしていたので、住民はここへ避難したと思う。地域の課題として、コミセンと中学校へ分散して避難することを、自主防災会で考えていきたい。
- ・クリーンセンターが改築する際に避難所としての機能を備えたと聞いているが、充実させてほしい。

市

- ・さざなみ学園の厚意により対応していただいたことは、福祉保健部長からも報告が上がっている。市が管轄していない避難所についても備蓄品を配備させていただきたい。
- ・地震により家が危ない場合は、市としてもできるだけ短時間で開設するように努めていくので、お近くのコミセン・小中学校へ誘導していただきたい。自主避難所を開設することもありえる。短時間で安全に逃げられる場所はどこなのか町内でも周知をお願いしたい。

松波地区

- ・松波コミセンはくらしのサポートセンターで高齢者（75歳以上）の見守り活動をしており、今後避難について考えていきたい。
- ・地震時の対応についてアンケートを実施した。98人のうち67人が回答しており、そのうち19%が家にいて、その他の人が避難した。避難方法はほとんどが車で徒歩は2件のみであった。どこに避難したのかは、さざなみ学園に10名で、他地区へも逃げていた。コミセン、中学校への避難者は10名で、避難所として認知されていないようであるため、今後コミセンとして会報誌などで周知していきたい。

- ・コミセンは避難所になっているが、車でほとんど避難する以上、車の置き場所・バスの待機所を含めて、余裕のある駐車場を検討してほしい。
- ・市職員は、災害時に避難所などへ出向くが、まずは町内が動いて、そこから市職員が来るようにし、市が何でもするのではなく、地域の力が必要であると思う。

市

- ・要配慮者の支援は大きな課題と思っている。会報誌等の周知はぜひやってほしい。
- ・曾地や長岡まで逃げた方もおり、適切な避難について周知したい。
- ・駐車場については、大型車の駐車スペースをある程度頭にいれて検討していく必要があると考える。
- ・職員を津波が来るところに行かせているわけではない。まずは、自身や家族の安全を確保して登庁し職務を行うこととしている。

中央地区

- ・地震の翌日に、戸建ての6~7割を訪問した。津波の避難で大切なのは少しでも早く徒歩で逃げることだと感じた。
- ・町内会では、町内にある分譲マンションと災害協定を結んだ。町内で協力いただけるものは、町内で協力を要請する必要があると考えている。
- ・高齢者の自宅を回っていたら、倒れた棚を直せない人がいて、見回りをしている人で直すことができた。
- ・日本海側に大きな津波はこないと安心感があつたと聞いている。本町の高さは8mあるから来ないという感覚であつたが、同じように大半の方が安心してた
- ・大きな灯籠が倒れており徒歩で避難するのに危険であつた。個人が所有するもので対応は難しいが今後検討が必要と感じた。

市

- ・正しく恐れる必要があると考えている。津波は過度に恐れる必要はない。洪水の場合は高所に逃げる垂直避難が有効で、地域の資産をうまく活用していただきたい。
- ・灯籠や塀の問題については、建築住宅課と連携し周知や対応を検討していく。

中央地区

- ・話を聞くと大半の人が逃げ、渋滞を起こしている。東日本大震災の津波をイメージしており、当時、日本海側では問題ないと言っていたが、今回はとにかく報道は「逃げろ、逃げろ」であつた。それでは、住民は逃げる。資料のグラフを見て、ポイントによって、高度が変わることをきちんと説明し、テレビや報道に対抗しきちんと説明してほしい

市

- ・海水浴シーズンや川の釣客がいるようなシーズンであれば、今回のようにサイレンや「逃げろ」が有効であるが、改めて周知方法に適切かつ明確な基準を設けていきたい。

各地区からの意見（午後の部）

大洲地区

- ・若葉町は津波の浸水想定に入っていないが、川から遡上した場合にどうしたらよいかと考えた場合に洪水ハザードマップを見ればよいのか。
- ・高齢者は標高を調べるのが難しい。新しいハザードマップでは標高がより分かるような形を望む。

市

- ・津波ハザードマップで浸水想定の色がない場合、基本的に現状の科学的知見のもと避難の必要はないと言える。河川遡上もハザードマップに反映しているため津波の浸水想定外のお住まいの方は避難の必要がない。
- ・ただし、大雨等で河川水位が上昇している場合もあるため、その際は洪水ハザードマップを参考に避難行動を行っていただきたい。なお、今回 1 月 1 日のような気象状況においては津波のハザードマップに従っていただきたい。
- ・避難所や津波の看板標識が見つらい誤りがあったことについて誠に申し訳なく思っている。現在、確認作業にあたっている。

大洲地区

- ・防災ガイドブック 14 ページによると、「C 沿岸部は高台へと避難」と書いてあるが、ハザードマップに着色がない以上避難しなくてよいのか。誤りであれば早急に修正していただきたい。

市

- ・ガイドブックが誤りである。津波だけに関して言えば地域別エリア「C 沿岸地域」は高台への避難は必要ない。ただし、津波単独災害は考えづらく、同時に起こりえるだろう地震に関しては不安であれば優先開設避難所としているコミセンや小中学校に避難していただきたい。

高浜地区

- ・今回の津波警報の際は、浸水想定エリア外も含めて町内ほぼ全員が避難をした。寒い中、自家用車にて避難をした方が多かった。町内の要配慮者も近所で声かけを行い車乗り合いのうえ避難した。椎谷は 40 世帯程度と住民も少ないためスムーズな避難行動ができた。
- ・避難所の物資配備が課題。

市

- ・今回、PAZ 地区の適切な避難行動に頭が下がる思いであり、私どもも学ばせてもらった。優先開設避難所以外への物資配備が課題であり、クラッカーや水などの物資を用意させていただく。

西山地区

- ・大崎集落センターは避難場所に指定されている。しかし、携帯の電波が非常に悪く連絡が取れない状況にあるため、市で電波調査を実施し、必要であればアンテナを建てるなどしていただきたい。

市

- ・大崎から石地の海岸線に関して、防災行政無線や携帯電話の電波状況が悪くご不便おかけしている。通信事業者との連携を含め早急にできる範囲で対応したい。

高浜地区

- ・この度、季節天候の関係から、自家用車避難が多かった。防災ガイドブックでは原則徒歩となっているが、歩行が困難な方にとって自家用車は有効と考える。大湊は避難場所に至る手前に広場があるためそこに自家用車を停めて高台に移動した。ガイドブックによると原則徒歩となっているが、大湊町内においては、自家用車が有効な手段と認識している。

市

- ・津波からの避難は原則徒歩としている。市内で高齢化が進む中、高齢者、妊産婦、障害のある方など、寒い中徒歩による避難は酷な状況である。今後徒歩避難の考え方についてあいまいではなく明確な指針を出していく。

米山地区

- ・米山小学校が避難所となっている中、集落近場の避難場所に 130～140 名以上避難した。サイレンが鳴り響く中、小学校への移動が危険と判断し、近くのお寺を開けてもらい、暖をとった。近くの商店からパンなど持ってきていただき難を逃れた。
- ・ハザードマップを見ると避難しなくてもよいと思いながらもサイレンが鳴り響いていると避難してしまう。鍵や備蓄品、避難行動などの事前確認が課題となる。

市

- ・米山地区の状況について後手後手に回ってしまい今後の課題として認識している。サイレンの継続時間、備蓄、避難所について早急に対応検討していく。
- ・民間の避難所となる施設の管理者と協議を行ったうえで、少なくとも物資の課題は早急に解決できるよう対応する。

大洲地区

- ・地震後、4.5 分後には役員で各世帯を回って安否確認を実施した。
- ・連合会の黄色いハチマキを 2/8 に全戸配布した。避難所に行く際など安否確認に活用する。

市

- ・みなさまの当日の行動には頭が下がる。必要な物資等あればお聞かせ願う。

鯨波地区

- ・鯨波地区に大津波が来た場合、鯨波コミセンが浸水想定に入っている。また、前川がはん濫する心配もあり、高台にある神明宮や浪花屋に大勢避難した。こういった高台の避難場所に資材倉庫を置くのも効果的だと感じた。
- ・サイレンを鳴らすことは避難の呼びかけに有効である。サイレンが長くなる中、自主判断で帰宅していただいた。

市

- ・河川遡上で一番心配しているのは前川である。寒い中、屋外での避難をする方へのフォローを早急に対応していく。

西山地区

- ・サイレンが鳴ったことで、まずは地域に声がけしながら高台へ避難した。旧石地コミセンにいったころには、正月ということもあり 120 人程度が避難していた。
- ・避難所の鍵に関して緊急時はすぐ開けられるように検討する必要がある。
- ・サイレンが鳴り響く一方で、きめ細やかな情報が少なかった。
- ・幸いにも地区で食料を備蓄していたため、避難者の方に提供した。

市

- ・鍵の問題に関して現在ほかの施設を含めて対応しているので今しばらくお待ちいただきたい。
- ・避難指示の対象世帯は市内で米山、石地地区が多い。
- ・サイレンの流し方についてどういったタイミングで解除するのか早急に検討していく。また、情報が足りなかった点についても今後の課題として早急に対応していく。

鯨波地区

- ・当日の状況として、発災後 10 分以内には笠島ふれあいセンターを開設した。暖の心配はなかった。
- ・90 代の女性の方について、ご家族は避難させたくないという意向であったが、近所の親戚が車に乗せて笠島ふれあいセンターに避難した。到着後具合が悪くなり緊急搬送したが、翌日にお亡くなりになられた。医師の判断では災害関連死ではないとのこと。
- ・80 代男性はご家族の避難したくないと意向で身内の判断に委ねた。
- ・避難所には最大に 56 名が避難した。高台にも家が多くあったので、炊き出しをしていただいた。防災資機材は米山コミセンに配備してあるが、毛布など集落センターに分散配備が可能なのか。

市

- ・要配慮者の件について、非常に重い問題と認識している。適切な避難行動の周知を徹底するよう努めていく。
- ・備蓄品について、不足分は早急に対応したい。

大洲地区

- ・ハザードマップで白い場所は慌てて避難しなくてよいと町内の回覧でお知らせするが、防災ガイドブックを早急に更新してほしい。

市

- ・チラシの全戸配布の検討も含めて早急に対応したい。

高浜地区

- ・地域住民はほぼ 100%避難した。事後アンケートを実施したところ、半分で車で避難しておりがっかりした。
- ・中越沖地震の際、土砂崩れなどにより宮川地区は孤立した。道路の隆起など中越沖地震クラスの地震では、車での移動は考えられない。
- ・町内会ではお寺 2 か所、神社に日ごろから資材を備蓄している。今回は幸いにも天気は良かったためブルーシートは使用しなかった。
- ・中越沖地震時にいただいた毛布を配布したが薄すぎて効果がなかった。地区では備蓄食を 50 食程度提供した。

市

- ・車の避難に関してごもつともである。車避難におけるリスクと例外をしっかりと周知していかなければならない。
- ・食料に関して暖かい備蓄品は少しずつ用意し始めているが、毛布に関しても検討していく。

大洲地区

- ・住民は、小学校、赤坂山公園等に避難した。大洲小学校は 40 分後くらいにしか開設されなかった。
- ・状況把握も電話が繋がらない。電波法の改正に伴い、省電力無線が使用できなくなったため、通信手段を検討しなければならない。海や原子力発電所の映像をライブ中継することはできないのか。

市

- ・大洲小学校の開設が遅れた件について反省点として認識している。ライブ中継について早速研究させていただきたい。

大洲地区

- ・ガイドブックの白い箇所は避難の必要がないのであれば、防災行政無線でそのように周知していただきたい。ガイドブック上の避難場所、避難所の記載をわかりやすく更新してほしい。サイレンとあわせて、ここの地域は大丈夫ですというのを周知してほしい。

市

- ・防災ガイドブックについて、浸水想定外は避難しなくてよいことに関して、また避難所避難場所の記載については早急に修正していく。
- ・わかりやすいアナウンスについて次の災害から実戦できるよう取り組んでいく。

西山地区

- ・石地コミュニティセンターは、西山コミセン石地分館に変更となったが、ガイドブックは変更されていない。グーグルマップはグーグルにメールしたら早急な対応をしてくれた。2階を石地区民センターとしており100名以上の避難者がいたが、市のホームページでは石地分館0人となっていた。

市

- ・早急に改善する。

【市長コメント】

本日みなさまから頂戴した意見を反映し、防災ガイドブック自然災害編を新たに改定する。それまでの間、町内の方々に日ごろからよく読んでほしいとお伝えいただきたい。また、本日の意見交換会の内容も地域の方々にお伝えいただきたい。